

小4国語 出題のねらいと対策

1 漢字の読み書き 65.0%

ねらい：間違えやすい漢字に注意し、正しい読み書きができるかを問う。

分析と対策：にた漢字とまちがえないように、一画ずつ長さや止め、はらいを意識して書きましょう。

2 漢字の音訓 45.0%

ねらい：漢字の音読みと訓読みの知識を問う。

分析と対策：「凶」や「番」は一字でも意味のわかる漢字ですが、音読みです。読みを覚えるときには、音読みなのか訓読みなのかを意識しながら覚えましょう。

3 漢字の部首 56.7%

ねらい：漢字の部首の知識を問う。

分析と対策：「にんべん」は「人」，「きへん」は「木」に関係するなど、部首には意味があります。主な部首ごとに学習した漢字を整理するのも、漢字の覚え方の一つです。

4 物語の読みとり 51.9%

ねらい：場面をとらえ、登場人物の言動から心情や心情の理由をとらえる。

分析と対策：八束澄子の「ぼくらの山の学校」からの出題です。山村留学センターで生活を送る小学四年生の壮太を主人公に、自分を慕う小学二年生のたくとに対する思いの変化についてかかれています。壮太を慕うあまりしつこく壮太のあとを追うたくとを、壮太は当初「うざくて仕方がない」と感じ、邪険じゃけんに対応していました。そして、たくとから離れて一人ひとりで釣りをしている

うちに、自然の心地よさに夢中になり、うっかり夜まで釣りをしてしまいます。妖怪ようかいやけものきょうふの恐怖とたたかいながら真つ暗な山から必死でセンターへと帰ると、そこにはいつもの明るく安心できる日常がありました。平静を取り戻した壮太は、まだ幼もどいたくとが自分を慕ってついて回る気持ちに思いをさせ、たくとへの感情が変化します。夜の山の恐怖を経験する前後の壮太の気持ちの変化を中心に読みとりましょう。

5 説明文の読みとり 51.1%

ねらい：説明文の内容をよく読み、筆者の考えを的確につかむ。

分析と対策：唐沢孝一「おかえりなさいツバメたち」からの出題です。筆者は、ツバメがなぜわざわざ人間の生活空間に近い場所に巣をつくるのかについて疑問を持ち、観察をしていきます。筆者はまずツバメの巣の構造に注目し、おわん型の巣はカラスにとって非常に狙いやすい形であることを指摘します。続いて他の鳥のさまざまな形態の巣についてもふれたうえで、ハシブトガラスがあらゆる巣を壊して卵やひなをくわえさっていく強い力があることを述べています。このような都心のカラスの生活を観察する中で、ツバメはあえて人間との距離が近い場所に巣をつくることで、カラスから襲おそわれないようにしているのではないかと意見を述べています。説明されている内容から、ツバメの知恵やカラスの生態せいざいについて読み取りましょう。

全体の平均点は53.5点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。